

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	障害者サービス事業	会計	一般会計	事業No.	808	施策順No.	28-010
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名			図書館		
施策	28 学習交流活動の推進	事業期間	開始	終了			

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	視覚障害者及び図書館に来館困難者 高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		視覚障害者	403	395	395	397	397	
		高齢者(H18年度65歳以上人口)	28740	29020	29020	29612	29612	
	意図	図書館への来館困難者及び視覚障害者でも、読書に親しみ、必要な情報を入手出来る。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	録音図書貸出タイトル数	4052	3715	3128	3700	3160	3700	B
	大活字本の貸出冊数	1255	2783	3095	3000	2651	3200	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		耐震改修工事による休館、また高齢化による利用者の減少もあり目標数値には達しなかったが、利用がはかられた。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	「すべての人に図書館サービスを」を基本に、資料をそのままの形で利用できない方のために資料を音訳して提供し、図書館利用に障害のある人たちの読書権を保障し、暮らしに必要な情報を提供する。 弱視・高齢者のための読書環境を改善し必要な情報を提供する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 大活字本及びカセットブックの購入・提供 2 市販テープ等録音資料の貸出 3 録音資料(カセットテープ図書・CDデジター図書)製作(著作権許諾処理・製作ボランティアコーディネート) 4 製作ボランティアの養成。 5 録音資料の相互貸借	1 (1)大活字本冊数 (2)貸出冊数 2 市販テープ等貸出数 3 (1)録音テープ図書製作数 (2)録音雑誌製作数 (3)録音CD図書製作数 4 会員数 5 相互貸借回数	1 (1)1,640冊 (2)2,651冊 2 577冊 3 (1) 31冊 (2) 112冊 (3) 92冊 4 69人 5 434タイトル
23年度実施計画	よむとすinいいだ事業に統合	よむとすinいいだ事業に統合	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	*この事業費は図書館運営事業・図書館維持管理事業・図書購入事業に計上。
	一般財源					
	国庫支出金					特定財源内訳、補足事項
	県支出金					
	起債					
	その他					
	計(A)		0	0	0	
	正規職員所要時間			2,000		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			7,152		
	トータルコスト A+B			7,152		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	資料提供の拡充が学びの機会を広げ、社会活動に参加できるように支援する。	施策の成果指標又はムトス指標	学習活動を行っている市民の割合 社会活動に参画する市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	図書館利用が困難な人たちへ、大活字本や録音図書によるサービスの提供が、社会活動の支援につながった。		
	後期に向けた課題	図書館利用の困難な市民へのサービスの提供により、読書活動の支援をしていく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	PRによる利用促進。 ボランティアの養成・育成に努力してきた。		
	後期に向けた課題	録音図書のPR、朗読ボランティアの増加。 ボランティアの知識や技術の向上。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	録音図書制作をボランティアに委ねている。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	図書館法で無料の原則がうたわれている。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	市民＝ボランティアによる録音図書の製作・録音機器用意 行政＝著作権の許諾業務・ボランティアの募集・養成・製作のコーディネート・研修機会提供及び支援等 市民と行政が役割分担を行い、30年間協働でサービスを行ってきている。		
	後期に向けた課題	それぞれの役割分担をつとめつつ、さらなる技術の向上をはかっていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	行政とボランティアが役割分担をするなかで、それぞれの市民へのアプローチで事業をすすめ、図書館利用困難者の読書活動を支援してきた。		
	後期に向けた課題	資料や機器のデジタル化への対応		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------